

# 3 生涯学習課

## (16 事業)

事務事業名	ページ
人権教育・家庭教育支援事業	21
成人教育事業	22
青少年教育事業	23
スポーツ指導者等育成事業	24
スポーツ振興団体育成事業	25
スポーツ教室・大会等開催事業	26
保健体育総務管理事業	27
社会教育総務管理事業	28

事務事業名	ページ
社会教育施設維持管理事業	29
図書館運営事業	30
体育施設維持管理事業	31
文化センター運営事業	32
美術館運営事業	33
文化財保護事業	34
歴史民俗博物館運営事業	35
国際交流事業	36

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名	人権教育・家庭教育支援事業		総括	家庭教育支援（参加体験型学習「親の力」を学び合う学習プログラム）の充実を図るため、保護者等を対象とした家庭教育に関する学習機会を提供した。 市PTA連合会に、保護者自らが企画・実施する事業の展開を図るよう家庭教育支援事業の業務委託を行った。	
	総合計画 (基本計画) 体系	めざす都市像	I人が集い育つまちづくりへの挑戦			
		施策目標	10 生涯学習活動の充実			
		具体的施策	37 人権教育・人権啓発の推進 40 家庭教育支援の充実			
担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課					

項目 (千円)	平成29年度			コメント	
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	報償費	284	284	204	人権教育・家庭教育支援講座講師謝金
	委託料	300	300	65	家庭教育支援事業業務委託費
	需用費	30	30	30	消耗品費
	旅費	23	23	13	
	その他				
計	637	637	312		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	637	637	312	
計	637	637	312		
人件費	人件費（時間外手当除く）		2,630		
	時間外勤務手当		94		
	計		2,724		
事業費計（人件費含む）			3,036	従事正職員数 0.3 人	

実施内容	平成29年度実施内容	成果と課題																							
実施内容	<p>平成29年度実施内容</p> <p>(1)安芸高田市家庭教育支援事業実施要領並びに人権教育事業実施要領により、PTA、保護者会、各幼保、学校の各機関が実施する家庭教育支援講座、人権教育講座を財政面で支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育講座 1講座</li> <li>・家庭教育支援講座 5講座</li> </ul> <p>(2)家庭教育支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加体験型学習「親の力」を学びあう学習プログラム（県教育委員会推奨事業）</li> <li>開催回数 7回</li> <li>参加人数 147人</li> <li>関連研修参加人数 7人（ファシリテーター研修等）</li> <li>ファシリテーター養成講座参加者人数 5人</li> <li>・市PTA連合会への家庭教育支援事業委託を継続し実施</li> <li>事業名称：「子育て講演会」</li> <li>日時：平成30年2月3日（土）</li> <li>会場：クリスタルアーショ小ホール</li> <li>参加人数：56人</li> </ul> <p>(3)人権教育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修（県教育委員会事業） 延参加人数 3人</li> </ul>	<p>平成29年度成果と課題</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□家庭教育支援事業・人権教育事業実施要領により、各機関が実施する関係講座への財政的支援を行い、学習機会提供を促進した。</li> <li>□参加体験型学習「『親の力』を学びあう学習プログラム」について、未就学児から中学生の保護者まで幅広い範囲で実施することができた。</li> <li>□参加体験型学習講座の進行役となるファシリテーターの養成講座に、市民から2名の参加があった。（残り3名は行政職員）</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■「『親の力』を学びあう学習プログラム」の実施回数・参加人数ともに若干減少。また、地域によってはある程度定着してきたが、未実施の地域もある。さらに推進する必要がある。</li> <li>■参加体験型学習講座の進行役となるファシリテーターが少なく、継続的なファシリテーターの養成が必要である。</li> <li>■人権教育を取り入れた「『親の力』を学びあう学習プログラム」について研究、実践する。</li> </ul>																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>活動・成果指標</th> <th>指標</th> <th>指標名等</th> <th>H29計画値</th> <th>H29実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標</td> <td>親プロ講座実施回数</td> <td></td> <td>8回</td> <td>7回</td> </tr> <tr> <td>ファシリテーター養成人数（新規）</td> <td></td> <td>5人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標</td> <td>親プロ講座参加者数</td> <td></td> <td>150人</td> <td>147人</td> </tr> <tr> <td>ファシリテーター活用回数</td> <td></td> <td>5回</td> <td>7回</td> </tr> </tbody> </table>	活動・成果指標	指標	指標名等	H29計画値	H29実績値	活動指標	親プロ講座実施回数		8回	7回	ファシリテーター養成人数（新規）		5人	5人	成果指標	親プロ講座参加者数		150人	147人	ファシリテーター活用回数		5回	7回
	活動・成果指標	指標	指標名等	H29計画値	H29実績値																				
活動指標	親プロ講座実施回数		8回	7回																					
	ファシリテーター養成人数（新規）		5人	5人																					
成果指標	親プロ講座参加者数		150人	147人																					
	ファシリテーター活用回数		5回	7回																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>分析</th> <th>分析理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>妥当性（必要性、民間活用について）</td> <td>適正である</td> <td>関係法令、市総合計画に照らし適正。</td> </tr> <tr> <td>効率性（コストについて）</td> <td>現状が最適である</td> <td>市民のファシリテーターを養成し謝金を抑止している。</td> </tr> <tr> <td>有効性（目標達成について）</td> <td>概ね目標を達成できた</td> <td>参加型体験学習が推進されてきている。</td> </tr> <tr> <td>市民参画</td> <td>市民が参加できた</td> <td>民間のファシリテーターを一層養成する必要がある。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	分析	分析理由	妥当性（必要性、民間活用について）	適正である	関係法令、市総合計画に照らし適正。	効率性（コストについて）	現状が最適である	市民のファシリテーターを養成し謝金を抑止している。	有効性（目標達成について）	概ね目標を達成できた	参加型体験学習が推進されてきている。	市民参画	市民が参加できた	民間のファシリテーターを一層養成する必要がある。									
項目	分析	分析理由																							
妥当性（必要性、民間活用について）	適正である	関係法令、市総合計画に照らし適正。																							
効率性（コストについて）	現状が最適である	市民のファシリテーターを養成し謝金を抑止している。																							
有効性（目標達成について）	概ね目標を達成できた	参加型体験学習が推進されてきている。																							
市民参画	市民が参加できた	民間のファシリテーターを一層養成する必要がある。																							

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名	成人教育事業		総括	市民の学習ニーズ並びに地域課題・現代的課題解決に対して、学習機会を提供し、豊かで健康的な生活環境の形成や地域の活性化に対する人づくりに寄与した。
	総合計画 (基本計画) 体系	めざす都市像	I 人が集い育つまちづくりへの挑戦		
		施策目標	10 生涯学習活動の充実		
		具体的施策	38 成人教育の推進		
担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課				

項目 (千円)	平成29年度			コメント	
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	負担金補助及び交付金	450	350	350	市PTA連合会補助金等
	報償費	396	396	266	各種講座講師謝金
	委託料	400	300	228	高齢者大学・市民セミナー講師派遣委託料
	需用費	180	180	180	消耗品費
	その他	200	50	34	使用料及び賃借料、旅費
	計	1,626	1,276	1,058	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他	140	140	59	市民セミナー受講料
	一般財源	1,486	1,136	999	
計	1,626	1,276	1,058		
人件費	人件費(時間外手当除く)		5,261		
	時間外勤務手当		189		
	計		5,450		
事業費計(人件費含む)			6,508	従事正職員数 0.6 人	

実施内容	平成29年度実施内容	成果と課題	平成29年度成果と課題		
実施内容	<p>(1)市民セミナー開催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開催講座数 11講座</li> <li>受講者数計 174人(募集定員計284人)</li> </ul> <p>(2)高齢者大学開催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開催講座数 6大学 51講座</li> <li>学生数 805人</li> <li>受講者数計 3,658人</li> </ul> <p>(3)社会教育関係団体支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市PTA連合会 補助額350千円</li> </ul>	<p>(成果)</p> <p>□市民セミナーにおいて、学習ニーズに即した学習機会の提供に加え、地域課題・現代的課題解決に向けた学習機会を提供し、まちづくりに寄与する人材の育成に取り組みを進めた。特に「仁義なき天気予報～天気の常識・非常識～」と題した防災講座は、参加者も多く市民のニーズに合った講座が開催できた。</p> <p>(課題)</p> <p>■高齢者大学の実施運営方法の見直し(参加者による主体的な企画、運営等)を行い、団塊世代の加入促進を図る。</p> <p>■ICT講座について、社会的必要性は高い反面、参加者ニーズの多様性等、課題もあるが、継続した取組みを行う。</p>			
	活動・成果指標	指標	指標名等	H29計画値	H29実績値
		活動指標	市民セミナー・ICT講座開催回数	12回	11回
高齢者大学講座回数			50回	51回	
成果指標		高齢者大学参加率	80%	50%	
	市民セミナー・ICT講座参加率	70%	61%		

平成29年度の分析	項目	分析	分析理由
	妥当性(必要性、民間活用について)	適正である	関係法令、市の総合計画に照らし適正。
	効率性(コストについて)	現状が最適である	市教委謝金規程の運用等、適正支出と経費削減に取り組んでいる。
	有効性(目標達成について)	目標を達成できなかった	講座参加率が低い。講座の企画・広報に改善が必要。
	市民参画	市民の参加が可能である	高齢者大学生の運営参画、市民講師の活用促進が必要。

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名 青少年教育事業		総括	心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むため、週末や長期休業期間中を活用して、体験活動等様々な学習機会を提供した。 家庭での学習が困難な小学生や学習の遅れがちな小学生を主な対象として、家庭学習支援を目的に、「地域未来塾」を市内13小学校において開講した。
	総合計画(基本計画)体系	めざす都市像 I人が集い育つまちづくりへの挑戦		
		施策目標 10 生涯学習活動の充実		
		具体的施策 39 青少年教育の推進		
担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課			

項目 (千円)	平成29年度			コメント	
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	報償費	4,828	3,828	3,082	各種講座講師謝金
	報酬	2,136	2,136	2,095	家庭学習コーディネーター報酬
	委託料	2,830	1,980	1,744	各種講座講師派遣委託料、放課後子ども教室委託料等
	負担金補助及び交付金	600	600	600	市子ども会連合会補助金
	その他	422	352	345	消耗品、役員費、旅費
	計	10,816	8,896	7,866	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金	1,350	3,220	2,730	広島県学校・家庭・地域連携協力推進事業県費補助金
	起債				
	その他	112	112	132	夏休み子ども教室、子ども科学教室、子どもふるさと探検隊参加費
	一般財源	9,354	5,564	5,004	
計	10,816	8,896	7,866		
人件費	人件費(時間外手当除く)		8,067		
	時間外勤務手当		289		
	計		8,356		
事業費計(人件費含む)			16,222	従事正職員数	0.92 人

平成29年度実施内容
(1)夏休み子ども教室(小学生) ・開催講座数 6講座 ・受講者数 108人 ・夏休み子ども教室情報紙「学びの夏」発行(全県配布)
(2)子ども科学教室(小学生) ・開催講座数 6講座 ・受講者数 81人
(3)子どもふるさと探検隊(自然体験教室)(小学生) ・登録隊員数 39人 ・活動回数 5回
(4)地域未来塾 ・家庭学習コーディネーター(非常勤)1名を配置し、小学校5・6年生を対象に、吉田小(5月～)外12校(9月～)開講。 ・受講者数125人
(5)中学生英語教室 ・英検受験対策支援講座「英検道場」開催。受講者数17名
(6)成人式典 ・参加成人者数 203人 ・対象成人者数 320人
(7)放課後子ども教室推進事業 ・かわね放課後子ども教室
(8)社会教育関係団体支援事業 ・市子ども会連合会補助金 600千円

平成29年度成果と課題
(成果) □小学生対象講座(夏休み子ども教室、子ども科学教室、子どもふるさと探検隊)では、様々な学習機会を提供し、子どもの体験不足解消等の課題解決に取り組むことができた。 □「地域未来塾」の全市展開を開始し、年度末には、受講者、保護者、学校対象アンケートを実施した。検証結果を次年度に活用。 □英検3級取得を目標とした取組み(英検公費負担事業など)に合わせ、新規に「英検道場」実施。
(課題) ■地域未来塾は、アンケートの検証結果をもとに、事業としての定着化を図る。また、学校との連携も強化していく必要がある。 ■第2次補助金整理合理化プランに基づき、市子ども会連合会の補助金について、適正化を図る必要がある。 ■小学生対象講座については、長期休業及び休日は他の行事等が多く、参加者が伸び悩んでいる。魅力ある講座作りや他行事との調整が必要である。

活動・成果指標	指標	指標名等	H29計画値	H29実績値
	活動指標	夏休み子ども教室・科学教室講座数		24講座
成人式 新成人参加率			70%	63%
成果指標	夏休み子ども教室・科学教室参加率		70%	94%
	成人式 新成人参加満足度		70%	47%

項目	分析	分析理由
妥当性(必要性、民間活用について)	適正である	関係法令、市総合計画に照らし適正。
効率性(コストについて)	現状が最適である	市教委謝金規程の運用等、適正な支出と経費削減を行っている。
有効性(目標達成について)	概ね目標を達成できた	参加については、他の行事が多く重なってしまう。
市民参画	市民が参加できた	成人式での先輩(市民)による講演や市民セミナーでの市民講師。

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名	スポーツ指導者等育成事業		総括	安芸高田市スポーツ推進委員による市民及び各種スポーツ団体へのスポーツ指導を充実させるため、芸北地区及び広島県、中国地区スポーツ推進委員協議会が主催する各種協議会並びに研修会に参加させ、スポーツ推進委員の資質向上を図った。
	総合計画(基本計画)体系	めざす都市像	I 人が集い育つまちづくりへの挑戦		
		施策目標	10 生涯学習活動の充実		
		具体的施策	43 スポーツ活動の推進		
担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課				

項目 (千円)	平成29年度				コメント
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	報酬	826	1,015	875	スポーツ推進委員報酬
	負担金補助及び交付金	173	193	189	研修会等参加負担金
	旅費	68	68	66	研修会参加費用弁償、一般旅費
	需用費	19	19	17	研修会参加資料代、研修会開催時消耗品
	その他	9	9	8	高速道路通行料
	計	1,095	1,304	1,155	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	1,095	1,304	1,155	
計	1,095	1,304	1,155		
人件費	人件費(時間外手当除く)		3,945		
	時間外勤務手当		142		
	計		4,087		
事業費計(人件費含む)			5,242	従事正職員数	0.45 人

平成29年度実施内容	平成29年度成果と課題
<p>(1)スポーツ推進委員の委嘱 ・スポーツ推進委員数 49名 ・町別委員数(吉田8名、八千代7名、美土里5名、高宮13名、甲田6名、向原10名)</p> <p>(2)スポーツ推進委員の資質向上 スポーツ推進委員の資質の向上を図り、スポーツ振興に寄与するため、各種研修会・協議会に派遣した。また市の推進委員協議会においても(全体会)・研修会の開催を行い資質向上に努めた。 【協議会】 ・安芸高田市スポーツ推進委員協議会(全体)兼研修会 19名 ・安芸高田市スポーツ推進委員協議会(代表者会:2回) 21名 ・芸北地区スポーツ推進委員協議会(2回分) 9名 ・広島県スポーツ推進委員協議会評議員・理事会 3名 ・中国地区スポーツ推進委員協議会 2名 【研修会】 ・広島県スポーツ推進委員研究大会 7名 ・広島県女性スポーツ推進委員研修会 4名 ・広島県総合マネジメント研修会 兼芸北地区研修会(安芸高田市開催) 29名 ・中国地区スポーツ推進委員研修会 10名 ・全国スポーツ推進委員研究協議会 2名 ・ファミリー健康体力向上事業・リーダー研修等 全国連合主催講習会(2回開催) 2名 合計(のべ人数) 108名</p> <p>(3)ファミリー健康体力向上事業への取組 これからの少子高齢社会を見据え、家族で健康寿命を延ばすことを目的に全国連合が主体となっているこの事業へ取り組むこととした。</p>	<p>(成果) □安芸高田市協議会独自による全体協議会・研修会を開催し、主体的な運営や、研修してきた内容の発表を行うことで、スポーツ推進委員に求められる意識向上及び情報共有が図れた。□スポーツ基本法におけるコーディネーターとして地域づくりに関わることの役割を、委員の意思として浸透が図れたと思われる。</p> <p>(課題) ■研修の成果を市民に還元する仕組みづくりが必要である。 ■幅広い世代の委員構成が必要である。 ■深く健康づくり・スポーツ振興・地域づくりを進めるため、協議会組織の強化をはかり、市へ還元する体制が必要である。</p>

項目	分析	分析理由
妥当性(必要性、民間活用について)	適正である	関係法令、市総合計画に照らし適正。
効率性(コストについて)	検討を要する	委員の定数・報酬・研修会参加の仕組みなど、検討の必要がある。
有効性(目標達成について)	目標を達成できた	研修参加者が目標値を達成できた。
市民参画	検討を要する	地域のスポーツ指導者への研修機会提供が必要。

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名		スポーツ振興団体育成事業	総括	スポーツ振興団体に活動補助金を交付し、各団体の活動を財政面で支援することにより、市民のスポーツへの参加機会・意欲の向上を図り生涯スポーツを推進した。
	総合計画 (基本計画) 体系	めざす都市像	I人が楽しい育つまちづくりへの挑戦		
		施策目標	10.生涯学習活動の充実		
		具体的施策	43 スポーツ活動の推進		
担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課				

項目 (千円)	平成29年度			コメント		
	当初予算額	最終予算額	決算額			
事業費	負担金補助及び交付金	10,661	10,661	10,538	社会体育関係スポーツ団体補助金	
	その他					
	計	10,661	10,661	10,538		
	財源内訳	国庫支出金				
		県支出金				
起債						
その他						
一般財源		10,661	10,661	10,538		
計	10,661	10,661	10,538			
人件費	人件費 (時間外手当除く)			1,315		
	時間外勤務手当			47		
	計			1,362		
事業費計 (人件費含む)				11,900	従事正職員数 0.15 人	

平成29年度実施内容

(1) スポーツ振興団体への補助金交付

交付団体	平成28年度	平成29年度
市体育協会	4,350千円	4,350千円
市スポーツ少年団	1,731千円	1,731千円
みつやの里スポーツクラブ	2,000千円	2,000千円
市ゲートボール協会	280千円	280千円
市ハンドボール協会	1,620千円	1,497千円
市カヌー協会	280千円	280千円
市サッカー協会	400千円	400千円
合計	10,661千円	10,538千円

平成29年度成果と課題

(成果)  
 各スポーツ振興団体に補助金交付を行い、各団体を財政面で支援し、生涯スポーツの推進を図った。

(課題)  
 各団体の活動事業のスクラップアンドビルドを進めるなどの事業精査ができていない。

指標	指標名等	H29計画値	H29実績値
活動指標	補助金交付件数	7件	7件
	成果指標	補助金総額 (H28年度対比)	100%

項目	分析	分析理由
妥当性 (必要性、民間活用について)	検討を要する	各補助金交付団体の自立を促進する。
効率性 (コストについて)	検討を要する	補助金使途と金額が適正なものか見直しを要する。
有効性 (目標達成について)	目標を達成できた	計画どおり補助金を交付した。
市民参画	市民が参加できた	社会教育法に基づき社会教育委員会の会議で意見を聞いている。

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名	スポーツ教室・大会等開催事業		総括	安芸高田市の特徴的なスポーツ環境を活用し、カヌー体験教室等により、スポーツに触れ合う機会の提供を図った。 社会体育関係団体等との協働による各種スポーツ大会の開催をはじめ、旧町単位でスポーツ推進委員が主体的に行うスポーツ行事を開催することにより、生涯スポーツの振興を図った。 小学校へ湧永ハンドボールクラブ等のアスリートを派遣するとともに、中学校運動部への外部指導者派遣等、児童生徒のスポーツ活動を支援した。
	総合計画(基本計画)体系	めざす都市像	I人が集い育つまちづくりへの挑戦 Ⅲ地域資源を活かしたまちづくりへの挑戦		
		施策目標	10 生涯学習活動の充実 25 トップスポーツの振興		
		具体的施策	43 スポーツ活動の推進 101 トップスポーツの活用 102 トップアスリートの育成		
	担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課			

項目 (千円)	平成29年度			コ・メント	
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	報償費	790	882	785	講師、中学校運動部外部指導者謝礼
	報酬	742	630	595	スポーツ推進委員活動報酬
	需用費	320	230	179	消耗品費等
	委託料	159	0	0	教室開催委託料
	その他				
	計	2,011	1,742	1,559	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他	19	19	18	行事参加負担金(子どもカヌー教室、親子カヌー教室)
	一般財源	1,992	1,723	1,541	
計	2,011	1,742	1,559		
人件費	人件費(時間外手当除く)		5,962		
	時間外勤務手当		214		
	計		6,176		
事業費計(人件費含む)			7,735	従事正職員数	0.68 人

平成29年度実施内容	平成29年度成果と課題															
(1)各種スポーツ教室開催事業 ・カヌー体験教室(4月29日) 20人 ・親子カヌー教室(7月16日) 中止 ・BMX体験教室(8月17日) 26人 ・SONPOボールゲームフェスタ(2月12日) 204人  (2)中学校運動部活動外部指導者派遣事業 ・6中学校 延564回  (3)市内小学校へのアスリート派遣事業 ・6小学校 延19回 (ハンドボール、カヌー、体操、バルシューレ、サッカー、陸上)  (4)各種スポーツ大会開催事業 ・ひろしま障害者フライングディスク競技大会(9月24日) 176人 ・安芸高田市長杯グラウンドゴルフ大会(11月17日) 167人  (5)ラジオ体操会、スポーツ大会等へのスポーツ推進委員派遣 ・6町 延85人	(成果) ログラウンドゴルフ大会においては、体協などが当日運営を自主的に進めたことで、市民167人の参加者が大いに満足する結果となった。カヌー、BMX教室においても、多くの参加があり、身近なところにも市町にはないスポーツ環境があることのPRができた。 □小学校へのアスリート派遣では、駅伝大会等に伴う走り方指導の要望が増加傾向にあるため、広島陸上競技大会が主催する「出前講座」を活用するなど、事業の効率化が図れた。 □初めて市で開催したSONPOボールゲームフェスタでは204人の参加があり、市内の子供の運動面での体作りに貢献できた。  (課題) ■小学校へのアスリート派遣では、小学生に指導できる地元アスリートの発掘や各学年に合わせた効果的なプログラムの開発が必要である。 ■中学校への運動部外部指導者派遣では、運動部顧問教師の負担軽減もきめた視点から希望が増える傾向にあるため、事業費が増大しない工夫が必要である。 ■市として大会を運営するべきか、実行委員会や民間団体にまかせるような体制で運営するべきか、検討を要す。															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>活動・成果指標</th> <th>指標名等</th> <th>H29計画値</th> <th>H29実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標</td> <td>小学校外部指導者派遣事業</td> <td>40回</td> <td>19回</td> </tr> <tr> <td>競技別体験教室実施回数</td> <td>3回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>成果指標</td> <td>体験教室参加率</td> <td>80%</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table>	活動・成果指標	指標名等	H29計画値	H29実績値	活動指標	小学校外部指導者派遣事業	40回	19回	競技別体験教室実施回数	3回	3回	成果指標	体験教室参加率	80%	80%
活動・成果指標	指標名等	H29計画値	H29実績値													
活動指標	小学校外部指導者派遣事業	40回	19回													
	競技別体験教室実施回数	3回	3回													
成果指標	体験教室参加率	80%	80%													

項目	分析	分析理由
妥当性(必要性、民間活用について)	適正である	関係法令、市総合計画に照らし適正。
効率性(コストについて)	現状が最適である	事業費精査をしており、コストの削減は困難。
有効性(目標達成について)	概ね目標を達成できた	悪天候による中止などもあったが各大会・講座、派遣事業を予定どおり実施した。
市民参画	市民が参加できた	教室・大会運営では市民との協働が図れている。

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名 保健体育総務管理事業		総括	全国大会出場選手等の壮行会を実施し、これに伴うスポーツ奨励金を交付した。 本市をホームタウンとして活動する湧永製菓(株)ハンドボールチーム「ワクナガレオリック」やマザータウンとして活動するプロサッカーチーム「サンフレッチェ広島」を応援観戦する事業を通して、みんなでスポーツを応援する楽しさを提供した。
	総合計画(基本計画)体系	めざす都市像 I 人が集い育つまちづくりへの挑戦 III 地域資源を活かしたまちづくりへの挑戦 施策目標 10 生涯学習活動の充実 25 トップスポーツの振興 具体的施策 43 スポーツ活動の推進 101 トップスポーツの活用 102 トップアスリートの育成		
	担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課		

項目 (千円)	平成29年度			コメント	
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	負担金補助及び交付金	5,250	5,450	5,449	サンフレッチェ広島スポンサードゲーム負担金及び補助金等
	報償費	440	590	555	全国大会出場スポーツ奨励金
	使用料及び賃借料	135	222	220	サンフレッチェ広島必勝祈願行事 武者衣装・陣幕借上料
	需用費	180	165	164	消耗品費等
	その他	241	189	170	旅費
	計	6,246	6,616	6,558	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他	5,250	5,250	5,250	過疎地域自立促進基金
	一般財源	996	1,366	1,308	
計	6,246	6,616	6,558		
人件費	人件費(時間外手当除く)			9,206	
	時間外勤務手当			330	
	計			9,536	
事業費計(人件費含む)			16,094	従事正職員数 1.05 人	

平成29年度実施内容	平成29年度成果と課題												
(1)全国大会等出場選手壮行会事業 ・開催回数 3回(7月19日、9月26日、3月14日) ・壮行者数 延べ103名 (2)サンフレッチェ広島応援事業 ・スポンサードゲーム(5月27日)1,350人 ・地元開幕戦応援バスツアー(2月24日)109人 ・サンフレッチェ広島応援フラッグ作成イベント(クリスタルアージュ1階ロビー 4月11日 80人) ・サンフレッチェ広島緊急応援事業(2回開催。商工観光課と協力) (9月30日 100人、11月26日 100人) ・サンフレッチェ必勝祈願行事(薄神社 2月8日 約250人) ・サンフレッチェ3年生ユースを送る会(2月27日 60人) (3)湧永レオリック応援事業 ・日本ハンドボールリーグ安芸高田大会(11月25日)150人	(成果) □年3回開催する全国大会等出場選手壮行会には、市内小中高등학교や遠去出場のあった学校へ情報収集を行い100人を超える選手を招き、市民参加による全国大会等へ臨む選手を激励することができた。 □サンフレッチェ広島安芸高田市スポンサードゲームでは、市民の応援機運を高めることができ、目標(1,500人)には到達しなかったものの、参加者が一体で市を挙げた応援をすることができた。 □サンフレッチェ広島のJ1残留争いもあり、多く観戦事業を行なうことで身近にプロスポーツがあることの魅力を感じさせることが出来た。 (課題) ■全国大会等出場選手について、スポーツ競技分野だけでなく、文化芸術活動分野も対象にするなどの検討が必要である。 ■サンフレッチェ広島及び湧永レオリックの応援事業については、市PTA、子供会、高齢者大学等の社会教育団体にアピールして、観戦者の新規開拓を図りスポーツに親しむ環境整備の必要がある。 ■各種スポーツ行事に協力していただけるスポーツボランティアの育成を考えていく必要がある。												
実施内容	成果と課題												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>活動・成果指標</th> <th>指標名等</th> <th>H29計画値</th> <th>H29実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標</td> <td>全国大会出場選手壮行会実施回数</td> <td>3回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>成果指標</td> <td>全国大会・国際大会壮行者数</td> <td>90人</td> <td>103人</td> </tr> </tbody> </table>	活動・成果指標	指標名等	H29計画値	H29実績値	活動指標	全国大会出場選手壮行会実施回数	3回	3回	成果指標	全国大会・国際大会壮行者数	90人	103人
活動・成果指標	指標名等	H29計画値	H29実績値										
活動指標	全国大会出場選手壮行会実施回数	3回	3回										
	成果指標	全国大会・国際大会壮行者数	90人	103人									

項目	分析	分析理由
妥当性(必要性、民間活用について)	適正である	関係法令、市総合計画に照らし適正。
効率性(コストについて)	検討を要する	事業内容の改善に取り組む余地がある。
有効性(目標達成について)	概ね目標を達成できた	優勝はなかったが、全国大会出場や技術向上への目標になる事業となっている。
市民参画	市民が参加できた	応援を実行委員会形式で運営し、市民との協働を行っている。



平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名	社会教育総務管理事業		総括	市内6館の市文化センターに、社会教育指導員（非常勤職員）を配置し、社会教育・生涯学習振興に係る人的整備を行った。 社会教育法に基づく社会教育委員を委嘱し、社会教育委員の会議を開催した。 広島県教育委員会等の主催する研修機会を有効的に活用し、社会教育関係職員の人材育成を図った。
	めざす都市像	I 人が集い育つまちづくりへの挑戦			
	総合計画(基本計画)体系	施策目標	11 生涯学習環境の充実		
		具体的施策	44 生涯学習拠点施設の充実		
担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課				

項目 (千円)	平成29年度				コメント
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	報酬	18,179	18,029	17,884	社会教育指導員報酬、社会教育委員報酬
	委託料	3,500	3,150	3,150	文化振興計画策定業務委託料
	賃金	1,739	1,609	1,555	臨時職員賃金
	需用費	356	356	356	消耗品費、追録図書費等
	その他	597	262	176	旅費、負担金、使用料及び賃借料
	計	24,371	23,406	23,121	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他	35	35	42	
	一般財源	24,336	23,371	23,079	
計	24,371	23,406	23,121		
人件費	人件費(時間外手当除く)		7,102		
	時間外勤務手当		255		
	計		7,357		
事業費計(人件費含む)			30,478	従事正職員数	0.81 人

平成29年度実施内容	平成29年度成果と課題															
<p>(1)社会教育指導員配置 ・市民文化センター3名 他の文化センター各1名</p> <p>(2)社会教育委員の会議 ・2回開催 ・広島県社会教育委員連絡協議会研修会参加数：4名</p> <p>(3)社会教育関係職員人材育成 ・延べ研修参加職員数19名 ・県生涯学習センター主催研修事業の活用 基礎研修：4名 学習プログラム研修：2名 生涯学習研究実践交流会：2名 ・第67回広島県公民館大会：4名 ・広島県公民館等職員研修：7名</p>	<p>(成果) □広島県教育委員会主催の各種研修等を積極的に活用し、職員の資質向上や、事業の計画・実施に、学習成果を発揮することができた。 □第3次行政改革項目として、各種審議会の統合・再編を行い、総合的審議会としての生涯学習審議会の設置を予定していたが、平成30年度に改選となる社会教育委員について、選出枠の再編や委員数の増員という形で対応する準備を整えた。</p> <p>(課題) ■社会教育法により、事務局に社会教育主事を必置することから、計画的に関係職員の社会教育主事資格取得を推進、継続する必要がある。 ■社会教育指導員を含む関係職員の資質向上のため、広島県教育委員会主催の研修等を積極的に活用、継続する必要がある。</p>															
実施内容	成果と課題															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>活動・成果指標</th> <th>指標名等</th> <th>H29計画値</th> <th>H29実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標</td> <td>社会教育委員の人数</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>社会教育主事資格新規取得</td> <td>1名</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td rowspan="1">成果指標</td> <td>社会教育関係研修延べ受講者数</td> <td>25名</td> <td>19名</td> </tr> </tbody> </table>	活動・成果指標	指標名等	H29計画値	H29実績値	活動指標	社会教育委員の人数	12人	12人	社会教育主事資格新規取得	1名	0名	成果指標	社会教育関係研修延べ受講者数	25名	19名
活動・成果指標	指標名等	H29計画値	H29実績値													
活動指標	社会教育委員の人数	12人	12人													
	社会教育主事資格新規取得	1名	0名													
成果指標	社会教育関係研修延べ受講者数	25名	19名													

項目	分析	分析理由
妥当性(必要性、民間活用について)	適正である	関係法令・各種関連計画に照らし適正。
効率性(コストについて)	現状が最適である	職員数も精査し、非常勤を含め最少人数の配置としている。
有効性(目標達成について)	概ね目標を達成できた	積極的に人材育成に取り組んでいる。
市民参画	市民が参加できた	市民の代表として、社会教育委員12名を委嘱している。

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名 社会教育施設維持管理事業		総括	市内各文化センター及び所管する集会所の維持管理を行い、市民の生涯学習活動のための環境を整備した。 高宮田園パラオのトイレを洋式に改修し、利用環境の整備を行った。 文化センターホールの安全管理対応として、事故防止に主眼を置いた勉強会を開催し安全対策に努めると共に、各施設ごとの備品台帳や舞台の基本仕様を作成した。 甲田町古井出教育集会所の屋根工事を実施し施設改修を行った。
	総合計画(基本計画)体系	めざす都市像 I 人が集い育つまちづくりへの挑戦 施策目標 11 生涯学習環境の充実 具体的施策 44 生涯学習拠点施設の充実		
	担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課		

項目 (千円)	平成29年度			コメント	
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	需用費	21,493	27,137	27,093	光熱水費、文化センター各種修繕、温水ヒーター修繕
	委託料	26,962	25,712	25,120	消防設備点検業務、照明・吊物設備保守点検
	工事請負費	10,000	9,500	9,485	高宮田園パラオトイレ改修工事・教育集会所屋根瓦葺替工事
	負担金補助及び交付金	4,313	4,500	4,324	八千代フォルテ維持管理負担金
	その他	5,182	5,372	5,002	一般買金、文化センター敷地料、衛生器具・通信運搬・備品購入費
	計	67,950	72,221	71,024	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	起債	6,000	0	0	
	その他	7,531	13,531	14,661	施設使用料等
	一般財源	54,419	58,690	56,363	
計	67,950	72,221	71,024		
人件費	人件費(時間外手当除く)		19,465		
	時間外勤務手当		698		
	計		20,163		
事業費計(人件費含む)			91,187	従事正職員数	2.22 人

平成29年度実施内容
市民文化センターをはじめ市内7か所の各文化センター並びに教育委員会が所管する地区集会所の適切な維持管理を行い、生涯学習の重要な拠点として市民の利用に供した。 ○各文化センター及び地区集会所の施設、設備等の維持修繕を行った。(9,032千円) ○高宮田園パラオトイレ改修(1,185千円) ○甲田町古井出教育集会所屋根瓦葺替工事(1,185千円)

平成29年度成果と課題
(成果) □利用者のニーズに答えられるよう、施設の不具合に対処した。 □市内6館で共通した利用基準を確認し、一部見直しを図ることで、明確な事務執行が出来るよう整理し直した。
(課題) ■各文化センターにおいて、建築後の経年劣化が目立ち、様々な補修、修繕が必要となってきている。 ■各文化センターは存続すべき施設であり、将来、大規模修繕が必要となることが予想されることから、長寿命化計画を策定する必要がある。(H31まで) ■各文化センターにおいて、受益者負担の考えに則り、全市共通の使用料及び利用方法を確立する必要がある。

指標	指標名等	H29計画値	H29実績値
活動指標	市文化センター利用件数	5,000件	8,607件
	市文化センター修繕・改修件数	20件	32件
成果指標	市文化センター利用者数	170,000人	153,639人
	施設瑕疵による事故件数	0人	0人

項目	分析	分析理由
妥当性(必要性、民間活用について)	適正である	他施設との併合により、各町の拠点施設となる。
効率性(コストについて)	検討を要する	今後の施設のあり方、支所統合を含めた業務見直しの中でコスト削減の検討が必要となる。
有効性(目標達成について)	目標を達成できなかった	市民の関心の高い行事計画や会議室としての行政利用を促していくことで、新たな利用者層の開拓を引き続き検討する。
市民参画	市民が参加できた	市民の願いの場として定着すると共に、行事等イベントボランティアの活用ができています。

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名	図書館運営事業		総括	生涯学習・情報発信の拠点施設として、さまざまな資料や情報を幅広く収集・提供し、市民のニーズに応えることを目的に、市内6館の図書館運営を行った。
	総合計画(基本計画)体系	めざす都市像	I 人が集い育つまちづくりへの挑戦		
		施策目標	11 生涯学習環境の充実		
		具体的施策	45 図書館の充実		
担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課				

項目 (千円)	平成29年度			コメント	
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	委託料	47,091	47,091	47,061	図書館運営業務委託料、図書館システム保守業務委託料等
	備品購入費	4,300	4,300	4,296	図書館資料購入費
	需用費	2,255	2,255	2,139	追録図書費(雑誌・新聞)、印刷製本費、消耗品費等
	使用料及び賃借料	2,092	2,092	2,050	図書館システム賃借料等
	その他	218	218	137	役員費、報償費、負担金、旅費
	計	55,956	55,956	55,683	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他	7,545	7,545	7,433	双務契約に係る機器賃借料、コピー代等
	一般財源	48,411	48,411	48,250	
計	55,956	55,956	55,683		
人件費	人件費(時間外手当除く)		6,751		
	時間外勤務手当		242		
	計		6,993		
事業費計(人件費含む)			62,676	従事正職員数 0.77 人	

平成29年度実施内容

(1) 図書館利用状況

	平成28年度	平成29年度	比較(H29-H28)
年度末蔵書資料冊数	187,082冊	189,920冊	2,838冊
年度末累計登録者数	17,704人	18,167人	463人
年間個人貸出冊数	207,619冊	202,583冊	-5,036冊
年間個人貸出人数	48,556人	46,397人	-2,159人

(2) ブックスタート事業  
 ・市健康長寿課が毎月実施する「4か月児相談」に読み聞かせボランティアが同席し、赤ちゃんとその保護者にブックスタートパック(絵本・バッグ・啓発パンフレット)を無料配布する取組みを実施。(H29年度対象者数:148人)

(3) 各町の高齢者大学において図書館紹介  
 ・高齢者層への図書館利用や読書活動推進を目的に、人形劇などを行った。

(4) 県立図書館との連携事業として、「地域連携事業」への参画。(「音楽の秋」特設)

平成29年度成果と課題

(成果)  
 □図書館と福祉部局並びに読み聞かせ団体と連携を図りブックスタート事業を継続。乳幼児期の読書活動を推進し、親子の触れ合いの機会を促すことができた。  
 □高齢者層への読書活動への機運を高め、図書館利用者の拡大を促すことができた。  
 □資料購入予算が削減傾向にある中、県立図書館の「地域連携事業」に参画することで、県立図書館等が所蔵する資料情報を市民に提供することができた。

(課題)  
 ■図書館利用が減少傾向にあることから、利用推進を促すため、子どもから高齢者までそれぞれの年齢層のニーズに合わせた取組みを継続的に行っていく。  
 ■特設展を積極的に行い、博物館・美術館等が企画する特設展との連携も図る。

指標	指標名等	H29計画値	H29実績値
活動指標	年間図書資料購入冊数	2,600冊	2,993冊
	年度末図書資料蔵書数	189,700冊	189,920冊
成果指標	1日当たりの平均個人貸出人数	190人	169人
	1日当たりの平均個人貸出冊数	800冊	737冊

項目	分析	分析理由
妥当性(必要性、民間活用について)	適正である	市民の知の拠点施設として、公立図書館は必須の生涯学習施設。
効率性(コストについて)	検討を要する	館の配置や業務委託等形態について今後要検討。
有効性(目標達成について)	目標を達成できなかった	図書館利用実績が前年度比で下がっている。
市民参画	市民が参加できた	読み聞かせ団体との協働、図書館ボランティア制度の運用。

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名	体育施設維持管理事業		総括	市内各社会体育施設の適正な維持管理・運営を行い、市民がスポーツ活動を行う環境整備を行った。 老朽化している施設が多いことから、随時社会体育施設の維持修繕を行い施設の長寿命化に努めた。 夏休み小学校プール開放に係るプール監視業務の委託を行った。
	総合計画(基本計画)体系	めざす都市像	I人が集い育つまちづくりへの挑戦		
		施策目標	11 生涯学習環境の充実		
		具体的施策	46 スポーツ活動を支える環境づくり		
担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課				

項目 (千円)	平成29年度			コメント	
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	委託料	180,042	180,842	180,732	プール監視業務、体育施設継管理、施設保守管理、電気保安業務、施設指定管理
	工事請負費	31,800	33,804	32,840	美土里B&G海洋センタープール缶体改修工事、吉田サッカー公園屋根塗装改修工事等
	需用費	9,016	12,266	12,242	一般消耗品、光熱水費、修繕料
	使用料及び賃借料	5,337	5,390	5,329	土地賃借料、下水道使用料、AEDレンタル料
	その他	1,052	1,052	920	汲み取り料、電話料、広告料、維持補修材料費
	計	227,247	233,354	232,063	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他	56,716	59,370	59,194	体育施設使用料、学校開放施設使用料、電柱看板掲出負担金等
	一般財源	170,531	173,984	172,869	
計	227,247	233,354	232,063		
人件費	人件費(時間外手当除く)		10,960		
	時間外勤務手当		393		
	計		11,353		
事業費計(人件費含む)			243,416	従事正職員数 1.25 人	

平成29年度実施内容
(1)指定管理者による体育施設の維持管理・運営 ・指定管理業者：(公財)安芸高田市地域振興事業団 5施設 吉田運動公園、吉田サッカー公園、吉田温水プール、八千代・美土里B&G海洋センター ・指定管理者：NPO法人いきいきクラブたかみや 1施設 高宮B&G海洋センター
(2)施設維持修繕工事の実施 施設の老朽化に伴い、温水プールや吉田運動公園などの修繕工事を実施。 ・吉田運動公園敷地内漏水対策工事 外5件 計 4,642千円
(3)吉田サッカー公園の改修 吉田サッカー公園においては吉田サッカー公園管理基金を充当し、開設以来未改修であった屋根や空調等の改修を行った。 ・吉田サッカー公園屋根塗装改修工事 外6件 計 20,499千円
(4)美土里B&G海洋センタープールの改修 学校プールとしても利用のある美土里B&G海洋センタープールの缶体塗装の改修を行い安全に利用できるようにした。 ※改修費 7,700千円
(5)夏休みプール開放に伴うプール監視業務委託の定着 ・臨時職員雇用による監視業務を取りやめ、警備業法に基づく安全管理のできる業者に委託した。また、利用団体(各小学校PTA)との協働による監視体制を確立した。 ・夏休みプール開放を行う小学校プール数 11施設

平成29年度成果と課題
(成果) □老朽化による改修及び機能改善工事(※12件(約32,500千円))を実施。各施設の機能的改善を図った。 □本来、芝生維持管理費用である吉田サッカー公園管理基金をサンフレッチェと協議の上運用し、管理棟屋根の大規模塗装改修等、経年劣化に係る改修に取り組んだ。
(課題) ■各施設の老朽化に伴い、修繕費が増加の傾向にある。市公共施設等総合管理計画の方針に基づく個別管理計画を策定し、計画的に施設改修を進める必要がある。 ■維持管理経費の削減と効率的な施設管理を目的とし、利用頻度の極めて少ないグラウンド等の施設については、廃止等検討する必要がある。 ■社会体育施設の利用が減少傾向にあることから、指定管理者制度を有効に活用しサービス向上に努めるほか、市としても利用状況を検証し、利用促進策を検討していく必要がある。

活動・成果指標	指標	指標名等	H29計画値	H29実績値
	活動指標	社会体育施設利用者数		400,000人
成果指標	瑕疵事故件数		0件	0件

項目	分析	分析理由
妥当性(必要性、民間活用について)	適正である	指定管理制度による施設維持管理運営を行っている。
効率性(コストについて)	コスト削減できる	施設の統廃合を含めた、維持管理経費削減の必要がある。
有効性(目標達成について)	目標を達成できなかった	前年度より、利用者がわずかながら減少している。
市民参画	市民が参加できた	夏休みプール開放において監視業務の利用団体(PTA)との協働。

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名		文化センター運営事業	総括	市民の創造性と表現力を高め、心豊かな生活と活力ある社会の実現に寄与することを目的に、優れた文化・芸術鑑賞機会の提供を行った。
	総合計画 (基本計画) 体系	めざす都市像	I 人が集い育つまちづくりへの挑戦		
		施策目標	10 生涯学習活動の充実		
		具体的施策	41 文化芸術活動の推進 42 優れた文化芸術の鑑賞機会の充実		
担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課				

項目 (千円)	平成29年度			コメント	
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	委託料	3,200	2,817	2,817	公演開催業務委託、照明業務委託
	負担金補助及び交付金	2,469	2,469	2,425	市文連補助金、けんみん文化祭負担金、県文連負担金
	需用費	519	519	476	消耗品費、印刷製本費(業者印刷)、食糧費
	役務費	72	72	33	ピアノ調律
	その他	18	48	32	職員旅費、有料道路使用料、その他借上料
	計	6,278	5,925	5,783	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他	900	900	1,038	チケット収入
	一般財源	5,378	5,025	4,745	
計	6,278	5,925	5,783		
人件費	人件費(時間外手当除く)		24,112		
	時間外勤務手当		865		
	計		24,977		
事業費計(人件費含む)			30,760	従事正職員数 2.75 人	

平成29年度実施内容	平成29年度成果と課題																		
<p>(1)鑑賞型事業(会場:市民文化センター・文化ホール)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宝くじ「夏川りみと京フィルコンサート」(701人)</li> <li>・NHKラジオ公開録音番組「真打ち競演」(646人)</li> <li>・「音楽の絵本ズーランシアンプラスクラシックコンサート」(328人)</li> </ul> <p>(2)参加型事業</p> <p>市民の生きがいの醸成及び日頃の活動の成果発表を目的に事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第9回あきたかた市民合唱祭(305人/高宮田園パラスツォ)</li> <li>・けんみん文化祭北区フェスティバルひろしま2017・あきたかた市民文化祭「舞台芸能の祭典」(800人/クリスタルアーショ)</li> <li>・あきたかた市民文化祭「展示芸術の祭典」(1,128人/クリスタルアーショ)</li> <li>・各町民文化祭(吉田、八千代、美土里、高宮、甲田、向原)</li> </ul> <p>(3)文化庁助成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇「劇団ポプラ」(刈田、根野小学校)</li> <li>・演劇「劇団東京芸術座」(向原中学校)</li> </ul> <p>(4)社会教育関係団体支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市文化団体連合会補助金 2,192千円</li> </ul>	<p>(成果)</p> <p>□来場者アンケートによると鑑賞型事業3公演とも満足度9割を越えた。市民のニーズに合った公演を実施することができた。</p> <p>□向原小学校の参加や合唱の間にアトラクションを入れるなど演出の工夫を行ったことで、年々減少していた合唱祭への来場者も増加傾向にある。</p> <p>□子供向けのクラシックコンサートの開催に加え、NHK公開番組、宝くじ文化公演の応募に当選したことで、市民に芸術文化の提供機会が広がった。</p> <p>□年々、市民文化祭の来場者・出演団体(者)数が減少傾向にあるが、「展示芸術の祭典」のみ、毎年、出展者・来場者が増えている。</p> <p>(課題)</p> <p>■子ども向けのクラシックコンサートを開催したが、入場者数が少なかった。子どもの数の減少も原因であると思うが、若い世代(親)が、ホールに足を運ぶ機会が少ないため、公演に馴染みがないことも原因と思われる。今後、子ども向けの事業を定期的に行いたい。業者の工夫を行っていかなければならない。</p> <p>■市民文化祭「舞台芸能の祭典」、町民文化祭の来場者・出演団体(者)が年々減っている。市全体での取組の工夫を行っていかなければならない。</p>																		
<p>活動・成果指標</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>指標名等</th> <th>H29計画値</th> <th>H29実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標</td> <td>各イベントに係る平均入場者率</td> <td>80.0%</td> <td>78.9%</td> </tr> <tr> <td>自主発表機会における出演・出展者数</td> <td>800人</td> <td>991人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標</td> <td>イベント延べ入場者数</td> <td>5,000人</td> <td>3,908人</td> </tr> <tr> <td>イベント来場者満足度</td> <td>85.0%</td> <td>99.10%</td> </tr> </tbody> </table>	指標	指標名等	H29計画値	H29実績値	活動指標	各イベントに係る平均入場者率	80.0%	78.9%	自主発表機会における出演・出展者数	800人	991人	成果指標	イベント延べ入場者数	5,000人	3,908人	イベント来場者満足度	85.0%	99.10%
指標	指標名等	H29計画値	H29実績値																
活動指標	各イベントに係る平均入場者率	80.0%	78.9%																
	自主発表機会における出演・出展者数	800人	991人																
成果指標	イベント延べ入場者数	5,000人	3,908人																
	イベント来場者満足度	85.0%	99.10%																

項目	分析	分析理由
妥当性(必要性、民間活用について)	検討を要する	鑑賞型公演の実施については、民間委託を検討する必要がある。
効率性(コストについて)	検討を要する	補助事業の活用により公演実施経費の削減を図る。
有効性(目標達成について)	目標を達成できなかった	入場者率・満足度の目標を達成できたが、入場者数が達成出来ていない。
市民参画	市民が参加できた	ホール運営ボランティアや出演者・出展者の運営協力が行えている。

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名	美術館運営事業		総括	安芸高田市内唯一の美術館として、市民の芸術文化活動（鑑賞・創造活動）を推進した。入館作家は美術館内でのワークショップの開催や、学校等に向いた指導を行うなど、市民がより身近に芸術に触れ親しむ取り組みを行っている。
	総合計画（基本計画）体系	めざす都市像	I人が集い育つまちづくりへの挑戦		
		施策目標	10 生涯学習活動の充実 11 生涯学習環境の充実		
		具体的施策	41 文化芸術活動の推進 42 優れた文化芸術の鑑賞機会の充実 44 生涯学習拠点施設の充実		
担当部署	教育委員会事務局 生涯学習課				

項目（千円）	平成29年度			コメント	
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	委託料	6,870	6,870	6,772	企画展開催業務、警備委託業務、日常清掃業務、芝等管理業務等 非常勤報酬、作家選定審査会委員報酬 消耗品費、光熱水費、修繕費、印刷製本費等 空調修繕工事等 賃金、使用料、旅費、備品購入費等
	報酬	6,866	6,866	6,612	
	需用費	4,659	5,044	5,008	
	工事請負費	0	1,260	1,188	
	その他	2,471	527	432	
	計	20,866	20,567	20,012	
財源内訳	国庫支出金				美術館入館料・使用料（548千円）、電気代等徴収（433千円）
	県支出金				
	起債				
	その他	1,283	1,033	981	
	一般財源	19,583	19,534	19,031	
計	20,866	20,567	20,012		
人件費	人件費（時間外手当除く）		2,630		
	時間外勤務手当		94		
	計		2,724		
事業費計（人件費含む）			22,736	従事正職員数	0.30 人

平成29年度実施内容
(1) 八千代の丘美術館14棟ギャラリー展示 ・第16期入館作家12名による常設展（年度内、当初を含め3回の展示替え）を開催した。 (2) 企画展示室（H棟）企画展 ・第15期入館作家寄贈作品展をはじめ著名な作家の作品展示など、全4回の企画展を開催した。 (3) 市民ギャラリー企画展 ・元入館作家や安芸高田市児童生徒自画像展など、全17回の展示を行った。 (4) 公開講座・出張講座 ・入館作家による公開講座を全20回行った。 ・入館作家が市内の小中学校4校に向き、延べ6回の指導を行った。 (5) イベント等の開催 ・入館作家交替イベントなど、集客増員や美術館のPRに向けたイベントを3回行った。 (6) 八千代の丘美術館維持管理 ・空調機器の改修等適宜修繕を行い、適正に維持管理を行った。

平成29年度成果と課題																		
（成果） 〇市内各学校へ入館作家等による美術指導を継続して実施しており、児童・生徒自画像展の出展数も、千点に近い応募があった。 〇入館作家等による市民対象の公開講座は、昨年より2講座多い20講座を開催したことで、入館者数の増につながった。																		
（課題） ■来館者数は、昨年実績を下回ったが、市民ギャラリーに多様な分野の展示を企画するなど、利用者増に向けて対策を講じる。 ■館内全てが木造建築で、建設後17年を経過していることから、空調設備、白蟻対策など計画的な改修が必要である。																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>指標名等</th> <th>H29計画値</th> <th>H29実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標</td> <td>常設展展示替え延べ開催数</td> <td>42回</td> <td>21回</td> </tr> <tr> <td>企画展開催数</td> <td>7回</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標</td> <td>来館者数</td> <td>11,500人</td> <td>8,348人</td> </tr> <tr> <td>学校での出張講座受講者数</td> <td>750人</td> <td>132人</td> </tr> </tbody> </table>	指標	指標名等	H29計画値	H29実績値	活動指標	常設展展示替え延べ開催数	42回	21回	企画展開催数	7回	10回	成果指標	来館者数	11,500人	8,348人	学校での出張講座受講者数	750人	132人
指標	指標名等	H29計画値	H29実績値															
活動指標	常設展展示替え延べ開催数	42回	21回															
	企画展開催数	7回	10回															
成果指標	来館者数	11,500人	8,348人															
	学校での出張講座受講者数	750人	132人															

項目	分析	分析理由
妥当性（必要性、民間活用について）	適正である	市内唯一の美術館としての必要性は高い。
効率性（コストについて）	コスト削減できない	企画展示業務の経費は削減できているが、維持・修繕費等を要する。
有効性（目標達成について）	目標を達成できなかった	講座回数は、前年度を上回ったが、来館者数は計画値を達成しなかった。
市民参画	検討を要する	地域や愛好者との協働が必要。

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名 文化財保護事業		総括	国史跡甲立古墳の今後の保存管理・整備方針を定めるため保存活用計画策定委員会議を3回開催し計画策定を終了した。 各種開発行為に伴う埋蔵文化財保護のための調査・指示等を行った。 伝統文化保存伝承団体支援のため2件の補助金交付を行った。 三矢の訓協定連携事業（日本遺産申請）に伴う三市町共同でのリレー形式の講演会を実施した。
	めざす都市像	Ⅲ地域資源を活かしたまちづくりへの挑戦		
	総合計画(基本計画)体系	施策目標 24 歴史・文化の保護・継承と活用 具体的施策 98 文化財の保存管理 99 伝統文化の継承 100 文化財の活用		
	担当部署	教育委員会事務局 生涯学習課		

項目 (千円)	平成29年度			コメント	
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	委託料	18,239	17,039	17,025	計画策定業務、遺跡発掘調査・整理・報告書作成業務、試掘調査作業等
	需用費	2,322	1,890	1,889	印刷製本費（甲立古墳保存活用計画報告書、稲山遺跡報告書）、消耗品費等
	負担金補助金及び交付金	797	1,811	1,788	研修会等参加負担金、各種協議会負担金、子ども歌舞伎保存会補助、芸能保存会等助成金
	旅費	411	461	445	特別旅費（文化庁協議、お城エキスパート等）、保存活用委員会委員費用弁償等
	その他	1,368	548	423	委員報酬、報償費、使用料等
	計	23,137	21,749	21,570	
財源内訳	国庫支出金	5,133	2,966	3,820	国宝重要文化財等保存整備費補助金（史跡甲立古墳保存活用計画策定等）
	県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	18,004	18,783	17,750	
計	23,137	21,749	21,570		
人件費	人件費（時間外手当除く）		13,152		
	時間外勤務手当		472		
	計		13,624		
事業費計（人件費含む）			35,194	従事正職員数 1.5 人	

平成29年度実施内容	平成29年度成果と課題												
(1) 甲立古墳保存活用事業 ・「史跡甲立古墳保存活用計画策定委員会」（2年目）会議を3回開催、計画策定を終了しこの報告書を刊行 (2) 埋蔵文化財試掘調査事業 ・試掘調査4件実施、遺跡有無協議回答21件、遺跡包蔵地照会21件 (3) 文化財保護・維持管理事業 ・国史跡多治比猿掛城跡・泉史跡鈴尾城跡清掃管理委託 (4) 伝統文化保存伝承活動団体・文化財補修者支援事業 ・伝統芸能団体補助金交付2件 原田はやし田保存会 吉田町子供歌舞伎保存会 (5) 文化財保護審議会運営事業 ・文化財保護審議会を2回開催（審議会委員10名） (6) 三矢の訓協定連携事業・日本遺産申請事業 ・安芸高田市・三原市・北広島町三市町の三矢の訓協定による連携事業として「日本遺産」への申請、講演会実施を共同で行った。	(成果) □「史跡甲立古墳の保存活用計画策定委員会」の会議を3回開催により計画策定を終了し報告書を編集、刊行した。 □市史跡稲山墳墓(四隅突出型墳丘墓)の今後の県史跡指定に向け検討資料となる報告書を作成することができた。 □三矢の訓協定連携事業による日本遺産申請を行い、三市町共同での講演会を実施し事業の周知を図るとともに相互の交流ができた。 (課題) ■事業の円滑な継続のため新たな埋蔵文化財専門職員の採用。 ■国史跡甲立古墳の今後の整備実施に向け、基本計画策定を速やかに進めるとともに、整備に向けた追加調査や周辺古墳の確認調査を進める必要がある。 ■稲山墳墓やその他重要遺跡（明官地廃寺跡、中馬・尾津谷西古墳群、中世山城跡等）の保存活用を図るため県・市史跡指定等を順次検討していく必要がある。 ■埋蔵文化財分布・試掘調査等のこれまでのデータの集積化の継続。（開発行為等における埋蔵文化財の有無確認業務の効率化）												
実施内容	成果と課題												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>指標名等</th> <th>H29計画値</th> <th>H29実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活動指標</td> <td>文化財保護審議会協議項目件数</td> <td>5件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>成果指標</td> <td>甲立古墳史跡案内数</td> <td>8件</td> <td>5件</td> </tr> </tbody> </table>	指標	指標名等	H29計画値	H29実績値	活動指標	文化財保護審議会協議項目件数	5件	2件	成果指標	甲立古墳史跡案内数	8件	5件
指標	指標名等	H29計画値	H29実績値										
活動指標	文化財保護審議会協議項目件数	5件	2件										
成果指標	甲立古墳史跡案内数	8件	5件										

項目	分析	分析理由
妥当性（必要性、民間活用について）	適正である	関係法令、市の総合計画に照らし適正。
効率性（コストについて）	検討を要する	文化庁の補助金を有効活用。文化財関係補助金交付の精査を検討。
有効性（目標達成について）	概ね目標を達成できた	史跡甲立古墳保存活用計画、稲山遺跡の報告書刊行等。
市民参画	市民が参加できた	文化財保護審議会委員 市民8名/10名中

平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名 歴史民俗博物館運営事業		総括	安芸高田市歴史民俗博物館の管理運営を行い、貴重な歴史資料の調査研究をはじめ、歴史、民俗、文化財資料の収集、保存管理、展示公開を行うとともに、企画展を行い、市民が地域の歴史・文化に触れる機会を提供した。 博物館は、郡山の麓に位置することから、郡山城や毛利元就観光の拠点として全国への情報発信を促進した。 歴史公文書の収蔵施設として、歴史公文書の適正管理を行った。
	総合計画(基本計画)体系	めざす都市像 III 地域資源を活かしたまちづくりへの挑戦		
		施策目標 24 歴史・文化の保護・継承と活用		
		具体的施策 98 文化財の保存管理 99 伝統文化の継承 100 文化財の活用		
担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課			

項目 (千円)	平成29年度				コメント
	当初予算額	最終予算額	決算額		
事業費	委託料	18,830	18,830	18,818	うち博物館指定管理料決算額 18,408千円
	報酬	2,196	2,196	2,169	非常勤職員報酬
	需用費	1,174	1,874	1,823	消耗品費、印刷製本費等
	使用料及び賃借料	1,936	1,736	1,656	土地借上料、資料借用料等
	その他	1,523	753	233	報償費、職員旅費、講習受講員負担金、歴史民俗博物館協議会負担金
	計	25,659	25,389	24,699	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他	225	525	716	博物館企画展図録販売代
	一般財源	25,434	24,864	23,983	
計	25,659	25,389	24,699		
人件費	人件費(時間外手当除く)		4,384		
	時間外勤務手当		157		
	計		4,541		
事業費計(人件費含む)			29,240	従事正職員数	0.5 人

平成29年度実施内容
(1)施設維持管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・(公財)安芸高田市地域振興事業団への指定管理</li> <li>・玄関周辺の塗装補修等小修繕の実施</li> <li>・所蔵品の燻蒸処理</li> </ul>
(2)企画展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・春季企画展「新収藏品展」開催 平成29年4月～6月</li> <li>・秋季企画展「さよなら三江線」開催 平成29年10月～12月</li> </ul>
(3)広報啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市広報紙連載「安芸高田歴史紀行」(3シリーズ輪番)</li> <li>・企画展「さよなら三江線」図録発行</li> <li>・三江線に乗ろうツアー2回開催</li> <li>・三江線口ピートーク開催</li> <li>・企画展展示解説開催(期間中土曜日)</li> <li>・公開講座開催7月～12月</li> <li>・夏休み体験イベント 1回開催</li> </ul>
(4)調査・研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内古者からの昔の記憶聞き取り調査</li> <li>・広報紙連載に伴う、市内城跡調査</li> </ul>

平成29年度成果と課題
(成果) □春季、秋季の2回の企画展を開催した。春季は近年館に収集または、寄贈寄託された新しい収蔵資料を一同に展示した。秋季企画展では、廃線となる三江線をテーマにした初めての展示会を開催し、多くの市民にその歴史と関係資料を公開することができた。また、関連して講演会、現地見学会等も開催し、全国各地より多くの来場者があった。同時に図録を刊行し好評を博した。 □入館者数は新市誕生以来もっとも多かった28年度の10,685人からさらに増加し、10,811人となった。
(課題) ■甲立古墳を含め、全市を網羅した常設展示内容に段階的に改善を図り、リニューアルしていく必要がある。

活動・成果指標	指標	指標名等	H29計画値	H29実績値
	活動指標	企画展実施回数		2回
	入館者一人当たりのコスト		1,700円	1,702円
成果指標	入館者数		1,100人	10,811人
	HP閲覧数(セッション)		24,000件	22,934件

項目	分析	分析理由
妥当性(必要性、民間活用について)	適正である	関係法令、市の総合計画に照らし適正。
効率性(コストについて)	コスト削減できる	指定管理料の精査が必要。
有効性(目標達成について)	概ね目標を達成できた	近年毎年入館者数が右肩上がりで増加。(新市誕生後最多を更新中)
市民参画	市民が参加できた	ガイド協会との連携。館内ボランティアの活用も要検討。



平成29年度決算 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名	国際交流事業		総括	これからの国際社会を生き抜く人材の育成を図るため、ニュージーランド国セルウィン町との姉妹都市交流を継続するとともに、ニュージーランド国ダーフィールドハイスクールとの姉妹校交流による派遣事業を実施した。
	総合計画(基本計画)体系	めざす都市像	Ⅲ地域資源を活かしたまちづくりへの挑戦		
		施策目標	26 観光・交流の振興		
		具体的施策	105 交流機会の充実		
担当部課	教育委員会事務局 生涯学習課				

項目 (千円)	平成29年度				
	当初予算額	最終予算額	決算額	コメント	
事業費	負担金補助及び交付金	4,070	4,257	4,257	ニュージーランド派遣団助成金等
	委託料	480	480	480	ニュージーランド連絡事務所業務委託料
	需用費	70	70	69	消耗品等
	旅費	4	4	2	旅費
	その他				
	計	4,624	4,811	4,808	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	起債	3,900	2,400	2,400	教育債
	その他	0	1,500	1,500	過疎地域自立促進基金
	一般財源	724	911	908	
計	4,624	4,811	4,808		
人件費	人件費(時間外手当除く)		6,576		
	時間外勤務手当		236		
	計		6,812		
事業費計(人件費含む)			11,620	従事正職員数 0.75 人	

平成29年度実施内容	平成29年度成果と課題																		
<p>(1) 姉妹都市交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ニュージーランド連絡事務所の開設(委託先:ダーフィールドハイスクール)</li> <li>原爆の日(8月6日)の平和のメッセージ交換(両市町首長間)</li> <li>市長セルウィン町訪問(滞在:8月17日~20日)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>セルウィン町長表敬訪問</li> <li>ダーフィールドハイスクールにて姉妹校提携20周年記念式典に派遣中学生とともに出席</li> <li>姉妹町交流委員会主催行事へ出席</li> </ul> </li> <li>ニュージーランド連絡事務所がセルウィン町文化フェスティバルにて芸芸高田市のPRコーナーを設置</li> </ul> <p>(2) 青少年海外派遣事業(姉妹校交流事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ダーフィールドハイスクール(ニュージーランド国)への派遣(生徒20名 引率2名)</li> <li>姉妹校提携20周年記念式典に参加し、記念植樹を行った。</li> </ul>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市長の姉妹町及び姉妹校訪問に伴い、市町、学校間の友好親善の意識が一層高まった。</li> <li>平成27年度から開始した、派遣希望者の作文提出や面接の実施が定着し、参加生徒の意識・意欲の向上につながってきている。</li> <li>交流・活動の様子を市広報紙やHPに掲載。市民への交流状況の周知を行った。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旅行業法の関係により、旅行形態の見直しを実施。安全対策にもつながる対策となったが、経費の増額をもたらした。安全対策の必要性や経費負担については今後も継続的な検討を要する。</li> </ul>																		
実施内容	成果と課題																		
活動・成果指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>指標名等</th> <th>H29計画値</th> <th>H29実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標</td> <td>青少年海外派遣事業募集生徒数</td> <td>20人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>中学生対象英語教室講座数</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標</td> <td>青少年海外派遣事業応募生徒数</td> <td>20人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>海外の姉妹校からの受入人数</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	指標	指標名等	H29計画値	H29実績値	活動指標	青少年海外派遣事業募集生徒数	20人	20人	中学生対象英語教室講座数	2	2	成果指標	青少年海外派遣事業応募生徒数	20人	31人	海外の姉妹校からの受入人数	—	—
指標	指標名等	H29計画値	H29実績値																
活動指標	青少年海外派遣事業募集生徒数	20人	20人																
	中学生対象英語教室講座数	2	2																
成果指標	青少年海外派遣事業応募生徒数	20人	31人																
	海外の姉妹校からの受入人数	—	—																

項目	分析	分析理由
妥当性(必要性、民間活用について)	適正である	社会的ニーズも高く、本市青少年教育の特徴的取組みとして確立。
効率性(コストについて)	検討を要する	個人負担金も含め今後検討を要する。
有効性(目標達成について)	概ね目標を達成できた	派遣希望者が増加傾向にある。
市民参画	市民が参加できた	市国際交流協会との協働を推進している。